

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

普通期水稻におけるいもち病の防除の徹底について

平坦部の普通期水稻において葉いもちの発生が増加した圃場がみられます。葉いもちの発生は穂いもちの発生につながり、被害を生じる恐れがありますので、発生圃場では下記事項を参考にして、防除対策を徹底してください。



記

1. 発生概況

普通期水稻

8月1日～3日に行った調査では、葉いもちの発生圃場率は52.1%（平成27年27.7%、前年54.2%）、発生株率は28.2%（平成27年10.3%、前年25.3%）であり、平成27年より多く多発生した前年並となっている。〈+〉（図1、表1）

ただし、発生状況は地区や圃場によって異なり、移植前から発生がみられた圃場や分けつが多く葉色の濃い圃場で発生が多い傾向にある。なお、各圃場の病斑は全て停止型病斑であった。

早植え水稻

8月3日に行った調査では、葉いもちの発生株率8.3%（平成27年6.8%、前年5.0%）であり、平成27年及び前年並となっている。〈±〉

2. 今後の気象予報

福岡管区気象台が8月4日に発表した九州北部地方の週間天気予報によれば、8月5日～8月11日の気温は平成27年より高く、降水量は平成27年並かやや少ないと予想されている。また、1か月予報では8月の気温は高く、降水量はやや少ないと予想されている。これらのことから、8月の気象はやや少発生の条件になると考えられる。〈-～±〉

注）それぞれの条件は、やや少発生（-～±）並（±）、多発生（+）として示す。

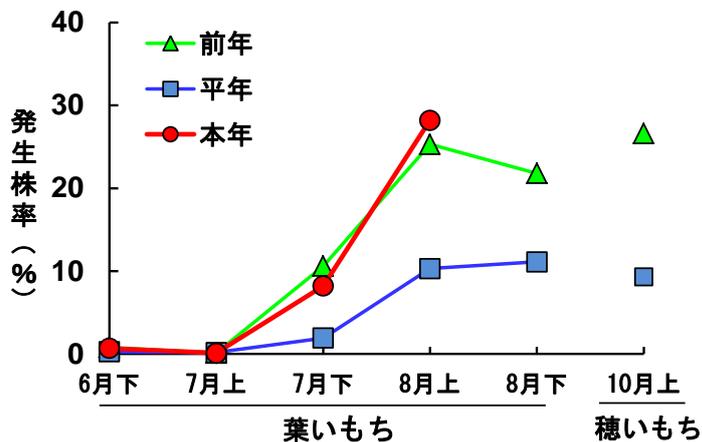


図1 普通期水稻におけるいもち病の発生

葉いもちの発生状況
(平成28年8月2日撮影)

表1 普通期水稻におけるいもち病の発生状況^{a)}

調査地点	品種	葉いもち			
		発生株数	発生程度 ^{b)}	発病葉位最高	病斑型
佐賀市	不明	25	株	第2葉	停止型
	不明	25	多	第2葉	停止型
	夢しずく	25	中	第3葉	停止型
	夢しずく	25	中	第3葉	停止型
多久市	さがびより	14	少	第3葉	停止型
	さがびより	21	少～中	第3葉	停止型
	さがびより	9	少	第3葉	停止型
	不明	20	少	第3葉	停止型
小城市	不明	1	少	第3葉	停止型
	不明	0			
	不明	25	中	第3葉	停止型
	不明	14	少	第3葉	停止型
鳥栖市	不明	1	少	第3葉	停止型
	不明	0			
	不明	0			
	不明	0			
神崎市	不明	0			
	不明	0			
	不明	0			
	不明	0			
吉野ヶ里町	不明	0			
	不明	1	少	第3葉	停止型
	不明	0			
	不明	0			
唐津市	夢しずく	0			
	夢しずく	0			
	夢しずく	0			
	夢しずく	0			
伊万里市	たんぼの夢	0			
	たんぼの夢	0			
	たんぼの夢	0			
	たんぼの夢	0			

調査地点	品種	葉いもち			
		発生株数	発生程度 ^{b)}	発病葉位最高	病斑型
武雄市	不明	25	株	第2葉	停止型
	夢しずく	20	中	第3葉	停止型
	さがびより	23	少～中	第3葉	停止型
	夢しずく	0		第3葉	停止型
白石町	ヒノヒカリ	1	少	第3葉	停止型
	不明	3	少	第3葉	停止型
	ヒノヒカリ	0			
	ヒノヒカリ	5	少	第3葉	停止型
鹿島市	不明	0			
	不明	0			
	夢しずく	4	少	第3葉	停止型
	夢しずく	2	少	第3葉	停止型
嬉野市	さがびより	7	少	第3葉	停止型
	ヒノヒカリ	13	少	第3葉	停止型
	夢しずく	21	少	第3葉	停止型
	さがびより	8	少	第3葉	停止型
発生圃場率(%)		52.1			
発生株率(%)		28.2			
平年発生株率(%)		10.3			
(平年比)		多			
前年発生株率(%)		25.3			
(前年比)		並			

a)平成28年8月1日～3日、1圃場25株調査

b)少:病斑面積率が0.5%未満
中:同率が0.5%以上2%未満
多:同率が2%以上10%未満

2. 防除対策

- (1) 葉いもちの発生状況は圃場により異なるため、**必ず葉いもちの発生状況を確認する。**
- (2) 葉いもちの病斑が多数みられる圃場や上位葉にみられる圃場では、葉いもちを対象に防除を行う。なお、進展型病斑が認められた場合には、早急に本田防除を行う。
- (3) 窒素過多はいもち病の発生を助長するため、葉いもちの発生が多い場合には穂肥えを控える。
- (4) **葉いもちの発生がみられるほ場では、穂ばらみ期の穂いもち防除を徹底する。**なお、発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。
- (5) 使用する薬剤は表2を参照し、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連続使用は避ける。

表2 イネいもち病の主な防除薬剤(葉いもち防除薬剤)

FRACコード	系統	薬剤名	成分名	処理量	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数
C3	Qo I 殺菌剤	嵐キラップ粒剤	エチプロール・オリサストロビン	3kg/10a	—	収穫21日前まで	1回
		イモチエース粒剤	メトミノストロビン	3kg/10a	—	収穫35日前まで	1回
		オリブライト1キロ粒剤	メトミノストロビン	1kg/10a	—	出穂10日前まで ただし、収穫45日前まで	1回
		オリブライト250G	メトミノストロビン	250g/10a	—	出穂10日前まで ただし、収穫45日前まで	1回
C3、G1	Qo I 殺菌剤+DMI殺菌剤	イモチミン粒剤	メトミノストロビン・シメコナゾール	3kg/10a	—	収穫45日前まで	2回以内
D3	キリシラノール抗生物質	カスミン液剤	カスガマイシン	—	1,000倍	穂揃期まで	2回以内
D3、I1	キリシラノール抗生物質+MBI-R	ダブルカットフロアブル	カスガマイシン・トリシクラゾール	—	1,000倍	穂揃期まで	2回以内
		ダブルカット粉剤3DL	カスガマイシン・トリシクラゾール	3~4kg/10a	—	穂揃期まで	2回以内
F2	ホスホロチオレート	カタジンP粒剤	I B P	3~5kg/10a	—	葉いもちに対しては初発7日前~初発時 穂いもちに対しては出穂7~20日前	2回以内
	ジチオラン	フジワン粒剤	イソプロチオラン	3~5kg/10a	—	葉いもちに対しては初発7~10日前 穂いもちに対しては出穂10~30日前 但し、収穫30日前まで	2回以内
I1	MBI-R	ビームゾル	トリシクラゾール	—	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
		ビーム粉剤DL	トリシクラゾール	3~4kg/10a	—	穂揃期まで	3回以内
		ラブサイド粉剤DL	フサライド	3~4kg/10a	—	穂揃期まで	2回以内
		コラトップジャンボ	ピロキロン	小包装(パック)10から13個(500から650g)/10a	—	葉いもちに対しては初発20日前~初発時、穂いもちに対しては出穂30日前~5日前まで	2回以内
		コラトップ粒剤5	ピロキロン	3~4kg/10a	—	葉いもちに対しては初発20日前~初発時、穂いもちに対しては出穂30日前~5日前まで	2回以内
I1、U	ピリミジノヒドラーン+MBI-R	ノンプラスフロアブル	トリシクラゾール・フェリムゾン	—	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内
		ノンプラス粉剤DL	トリシクラゾール・フェリムゾン	3~4kg/10a	—	収穫7日前まで	2回以内
		ブラシン粉剤DL	フェリムゾン・フサライド	3~4kg/10a	—	収穫7日前まで	2回以内
I2	MBI-D	アチーブMC	フェノキサニル	—	2,000倍	収穫14日前まで	3回以内
P2	ベンゾイソチアゾール	オリゼメート粒剤	プロベナゾール	3~4kg/10a	—	葉いもちに対しては初発10日前~初発時 穂いもちに対しては出穂3~4週間前 収穫14日前まで	2回以内
U	4-キリル酢酸	トライフロアブル	テブフロキン	—	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内

※佐賀県施肥・病害虫防除のてびきに掲載している薬剤を記載